平成２８年１２月１４日

資料　４

教育振興部教育指導課

これまでの「いじめ防止実践事例発表会」において報告された保護者・地域と

連携した取組の例

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小学校 | ① | ＳＳＴ（ソーシャルスキルトレーニング）を児童対象に実施した。子供たちの心が前向きに明るくなり、トラブルにならないよう子供同士で互いに声をかけ合うなどの変容が見られた。その後、保護者を対象としたＳＳＴを実施した。保護者代表の方からは、ＳＳＴを経験して子供の見方が多面的になった。今後も学校と協力しながら子供への接し方を学んでいきたいとの話があった。 |
| ② | 保護者を中心にあいさつ運動を実施した。この運動は６月と１１月のふれあい月間に実施しており、学校と家庭と地域が連携を図り、いじめの問題も含めて子供たちを見守っていくための一つのきっかけとしている。大人が子供の顔を見て率先してあいさつすることによって、見守っていく姿勢を子供に示すことができた。 |
| 中学校 | ① | 生徒会が主体となったいじめ防止キャンペーンの一環で、文化祭の際に「一人一人の存在がいかに大切であるか」をテーマとして、生徒から生徒へ、先生からみんなへ、保護者から我が子へメッセージを贈った。保護者代表の方の「私たちは、いじめたりいじめられたりするために、あなたを一生懸命育てているわけではありません。」との言葉が心に残った。 |
| ② | 生徒会が呼びかけ、有志の生徒が参加したあいさつクリーン運動を実施した。その運動に保護者も協力し、近隣の方や小学生に進んであいさつしながら校内および学校近隣の清掃を行った。保護者代表の方からは、今後も学校の取組に積極的にかかわっていきたいとの話があった。 |
| ③ | 町内の掲示板に生徒会および美術部の生徒が作成したポスターを掲示するなど、上石神井育成委員会といじめ撲滅に向けて連携を図った。また、いじめの撲滅に向けて、全生徒と保護者・地域の方が学ぶ講演会を実施し、共に学ぶ機会を設定した。 |
| ④ | 管理職とＰＴＡ役員がいじめ一掃プロジェクトの内容を協議し、携帯電話やスマートフォンの利用状況等を調査し結果を基に懇談会を行った。保護者が生徒の実態を把握することは大きく役立った。 |
| ⑤ | 学校とＰＴＡが「おやじの会」や「同窓会」と連携しながら、年間を通じて行事や授業に関わり、生徒の健全育成に努めた。１１月は、あいさつ・スマイルクリーン運動を保護者・近隣小学校と協力して行った。 |
| ⑥ | ＰＴＡ運営委員会を中心に、子供の携帯について協議した。メールやラインを使用する時間等、保護者は子供の使用の実態を把握しているかなど、時間をかけて協議した。学校からは、ＳＮＳルール作成基本計画を基に今後の取組を報告した。 |